

Chapter

02 STUDY PLAN-10F 入学生

01.履修申請	021
02.成績表の見方	026
03.卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	027
04.卒業研究	029
05.卒業見込証明書	029
06.資格取得	030
07.飛び級制度	032
08.カリキュラム	033

01. 履修申請

- ・「履修申請」とは、自分が受けたい授業科目を申込みことです。
- ・「履修申請」は、本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、履修制限等をよく読んで上で、自分の時間割の計画を立てて申請してください。
- ・大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択できるようになっています。
- ・申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。
- ・申請の手順については別に配布するWeb履修申請ガイドをご覧ください。

(1) 履修計画における注意点

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス」をよく読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受けたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。
- ③同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。各コースの履修要件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
- ④卒業資格最低単位数(卒業要件単位数)を充足できるよう重点をおいてください。
- ⑤申請する前に、学籍番号などによって指定されているクラス等を確認してください。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。
- ⑦既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

(2) 専門教育科目

1年次から各年次ごとに実験、実習、演習が開講されています。これらの科目は、2～3時限連続で開講されるものもあります。配当年次で修得できないと、次年度の必修科目と重複する場合がありますので注意してください。

(3) 手続方法

① 履修計画を立てる

配付資料に基づき履修計画を立て、Web履修申請ガイド巻末にある「時間割下書き用紙」に記入します。また、履修したい講義がクラス登録科目である場合には、同じく巻末にある「クラス登録応募下書き用紙」に記入します。講義科目の中には、学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの、抽選により履修者を決定するもの、プレイメントテストの結果により履修指示が為されるもの等、さまざまなタイプがあります。これらの情報は、講義時間割の備考欄等に記載されています。

② 登録手続き（3つの期間（順序）に分けて行う）

a. クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果、当選した場合に限り履修することができます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は、巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

b. 本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を登録してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）同時に、抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内なら何度でも登録内容を変更することができます。登録が完了したら内容を印刷し、保管しておいてください。

c. 修正

登録した講義を修正（追加、削除）することができます。但し、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず登録内容を印刷してください。

【クラス登録の要領について】

- ・講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印がある講義の履修を希望する場合は、本申請に先立ちクラス登録が必要です。
- ・クラス登録は、応募受付⇒抽選⇒発表（本申請時には、当選した科目が画面に自動表示されています。）の順で行われます。
- ・当選した講義はキャンセルすることができません。また、はずれた方は、本申請期間または修正期間に残席がある場合に限り先着順で登録できます。

③ 言語文化科目

- ・担当教員は、後日掲示でお知らせします。決定した担当教員のクラスで履修申請をしてください。
- ・TOEICクラスの受講は、事前に実施した学力テストの基準に達した学生に限ります。
- ・第1希望にもれた場合は、同一曜日・時限の別のクラスに割当てられることがあります。
- ・新入生の英語については、プレイメントテストの結果発表に従って履修申請してください。履修を希望しない場合は、予め教務課に申し出てください。

④ 身体科学科目

- ・再履修者は、再クラスでの登録となります。
- ・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。
- ・体育研究室からの注意事項は次の通りです。

〈体育研究室からのお願い〉

受講時の注意

- ① 出欠席を厳しくとります。身体科学科目が半期科目（前期で終了または後期で終了）の場合は、半年に3回までの欠席は認めますが、4回以上欠席した学生は不合格となり単位は認定されません。
- ② 「スポーツ科学」や「運動科学」は、講義日の3/4以上の出席が必要です。
- ③ 「スポーツ科学実習」について
 - ・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
 - ・運動服には、白い布に学籍番号と氏名を書いて左腕と右尻に縫い付けてください。
 - ・体育館内のコースを受講する学生は、運動靴に赤線を入れて室内専用に使ってください。
 - ・テニスコースを受講する学生は、テニスシューズを使用してください。
 - ・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を使用し、授業時間ごとに借り出し、授業終了後ただちに返却してください。
- ④ 本科目の受講の指示は掲示で行いますから、体育館の掲示板を見るよう心掛けてください。
- ⑤ 前・後期両方とも同じ種目を取らないようにしてください。ただし、抽選で前・後期とも同じ種目になった場合は受講してください。
- ⑥ 「ボウリング」、「ゴルフ」については、ゲーム代等別途費用がかかります。

(4) 自由科目

他学部（自分の所属する学部以外）および他学科（自分の所属する学科以外）の専門教育科目（人間環境学部は展開科目）を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。（これを「自由科目」と称します。）ただし、履修の認められない科目がありますので下表で確認してください。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスを熟読のうえ選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる（表示されている）科目から選択してください。

機械工学科

他学部	他学科	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
人間環境	文化コミュニケーション・生活環境・スポーツ健康	4単位	製図、演習、実験、実習、外国書講読、卒業研究 ※その他各学科の事情等により除外する科目
経営	経営・流通		
経済	経済・国際経済		
—	交通機械工・都市創造工・電子情報通信工・情報システム工・建築・環境デザイン		

(5) 履修制限

機械工学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

10F学生に適用

1年間に履修できる単位数	最大50単位(教職に関する専門教育科目を除く)
学年による科目の制限	1年次:1年次配当科目を履修することができます。 2年次:1,2年次配当科目を履修することができます。 3年次:1~3年次配当科目を履修することができます。 4年次:すべての開講科目を履修することができます。
総合教育科目	卒業までに卒業要件24単位以上、専門教育科目(92単位以上)と併せて124単位以上修得してください。ただし、3年次修了時までに最低要件24単位(必修・選択必修含む)を修得しなければ、次年度「卒業研究」を履修することはできません。
	<p>教養教育科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ■初年度に「表現力基礎演習」を必ず履修しなければなりません。(留学生除く) ■留学生は、日本文化8単位を必修とします。
言語文化科目	<ul style="list-style-type: none"> ■卒業要件単位は、8単位以上(うち英語の卒業要件単位を4単位以上)とします。(英語のみも可)(留学生除く) ①英語は入学初年度に限り、プレイスメントテストの結果により習熟度別クラスに分けます。 ■初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)を履修する場合は、必ず「入門1」から履修してください。 ■留学生は、 <ul style="list-style-type: none"> ①母国語を履修することはできません。 ②日本語8単位を必修とします。
専門教育科目	<ul style="list-style-type: none"> ■補習科目について 「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」を不合格になった者はそれぞれに対応する補習科目を修得しなければなりません。その場合、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」を履修することはできません。 ■プレイスメントテストの点数が基準に満たない者は、「基礎数学および演習」を履修しなければなりません。また、初年度の前期に限り「解析学1」、「代数学1」を履修することはできません。 ■卒業までに卒業要件92単位以上、総合教育科目(24単位以上)と併せて124単位以上修得してください。
その他	既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。

02. 成績表の見方

- ・発表される「成績表」は、当該年度の前期末または学年末までの成績です。
- ・単位左側の文字の「必」は必修科目、「選必」は選択必修科目、「選」は選択科目を表わします。
- ・成績欄右寄りの評価は「今年度の成績」、中央の評価は「昨年度までの成績」を表わします。
- ・評価・認定は、「S」「A」「B」「C」「D」「T」で判定します。

修得単位数欄

卒業要件単位数	卒業に必要な単位数
修得卒業要件単位数	現在修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得総単位数	現在修得している全ての単位数

進級・卒業判定欄

1年次	2年次	3年次	4年次	卒業	4留
1年	2年	3年	4年	卒業できる	卒業延期

来年度欄（3年生以上）

卒見証発行	有	無	
	卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可	
卒研資格	有	無	済
	卒業研究履修資格有	卒業研究履修資格無	卒業研究修得済

※卒業研究の有資格者に卒業見込証明書を発行します。

- ・卒業研究履修資格欄（3年生以上）

学年末に発表する成績表には、次年度の「卒業研究」履修の可否が表示されます。

03. 卒業要件単位数 (外国人留学生も共通)

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間(編入生は2年間)以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年(編入生は2年)で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上(編入生は別途定める)を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

(1) 卒業要件単位数

総合 教育 科目	教養教育 科目	表現力基礎演習	24単位 以上	124 単位	学士(工学)	
		人文学				
		社会科学				
		自然科学				
		学際領域				
	言語文化 科目	日本語文化	8単位(留学生)			
		英語	4単位以上			8単位以上
		初修外国語				
		日本語	8単位(留学生)			
	身体科学科目					
専門教育科目	必修、選択科目の単位を併せて92単位以上 (自由科目4単位を含む)					
4年以上在学						

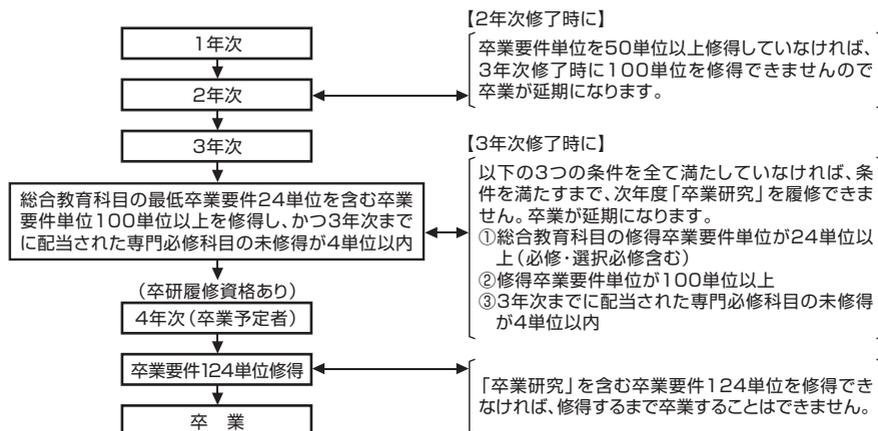
注) 留学生は、教養教育科目分野の日本語文化8単位および言語文化科目分野の日本語8単位を必須とする。

(2) 進級の条件

修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、4年間で卒業できなくなります。

なお、1年間で最大50単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。

一進級および卒業までの流れ一



(3) 卒業要件単位の履修要件

【総合教育科目】24単位以上

①必修科目※留学生のみ（卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。）

留学生は、日本文化科目群の4科目8単位、日本語科目群の8科目8単位を必ず修得してください。

②選択必修科目（特定の科目群から指定された単位を修得します。）

言語文化科目分野から、英語科目4単位以上を含み8単位を修得してください。英語のみで8単位を修得してもかまいません。ただし、留学生は日本語8単位が必修なので、修得しなくてもかまいません。

③選択科目（必修・選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）

①②以外に、16単位以上（留学生は8単位以上）を修得してください。

【専門教育科目】92単位以上

①必修科目（卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。）

機械工学基礎科目群の11科目22単位、専門基礎科目群の6科目12単位、卒業研究・ゼミナール科目群の3科目8単位、計42単位を必ず修得してください。

②選択科目（必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）

①以外に、50単位以上を修得してください。

③補習科目（「工業力学1・2」、「材料力学1・2」に対応する補習科目です。）

必修の「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」が不合格になった場合、それに替わる必修科目です。不合格になった場合は、各々に対応する「工業力学基礎1」、「工業力学基礎2」、「材料力学基礎1」、「材料力学基礎2」を必ず修得してください。なお、もとの科目を再履修することはできません。

総合教育科目と専門教育科目の最低要件単位は併せて116単位です。卒業要件124単位に不足する8単位については、総合・専門各々の最低要件単位数を超えた単位で補ってください。

04. 卒業研究

(1) 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」(4年次配当科目)を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請をする前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

(2) 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

- ①総合教育科目の最低要件24単位を含む卒業要件100単位以上を修得していること。
- ②3年次までに配当された専門必修科目の未修得が4単位以内であること。

05. 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機(本館1階、13号館1階)を利用してください。

06. 資格取得

学科によって、卒業または特定の科目を修得することを条件に資格や免許の取得で優遇されるものがあります。以下の一覧表を参考に履修コースや履修科目を選択してください。

(1) 教員免許状

免許(資格)の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状(工業)	工学部全学科(情報システム工学科除く)	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得(詳細は教職ガイダンスで説明します。)
高等学校教諭一種免許状(情報)	電子情報通信工学科 情報システム工学科	
高等学校教諭一種免許状(数学)		
中学校教諭一種免許状(数学)		

(2) 学科あるいは特定科目の修得によって認定される資格

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
二級ガソリン 自動車整備士 二級ジーゼル 自動車整備士	受験資格 ※実技試験免除	交通機械工学科の 自動車工学コース	特定科目の修得および卒業 ※卒業年次10~3月実施の 「整備技術講習」修了で 実技試験免除
電気通信主任技術者 〔伝送交換主任 線路主任〕	受験科目 一部免除	電子情報通信工学科	特定科目の修得
電気通信の工事担任者	受験科目 一部免除	電子情報通信工学科	特定科目の修得および卒業
第一級陸上特殊無線技士	申請による 資格取得		
第二級海上特殊無線技士			

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
1級建築士	受験資格	建築・環境デザイン学科の シビックデザインコース 建築・インテリアデザインコース	特定科目の 修得および卒業後の 実務経験(2~4年)
2級建築士 木造建築士	受験資格	建築・環境デザイン学科の シビックデザインコース 建築・インテリアデザインコース 都市創造工学科の 土木・環境総合コース まちづくりコース	特定科目の 修得および卒業後の 実務経験(0~2年)
インテリアプランナー	受験資格	建築・環境デザイン学科	満20歳以上 ※登録には卒業後の 実務経験(2年以上)が必要。 ただし、クラフトデザイン コースについては、 更に特定科目の修得が必要。
商業施設士	受験資格	建築・環境デザイン学科	卒業後の実務経験
技術士補	申請による 資格取得	都市創造工学科の 土木・環境総合コース	土木・環境総合コースの修了
測量士補	申請による 資格取得	都市創造工学科	測量学1、測量学実習の 修得および卒業 ※実務経験により測量士の 資格取得可
社会福祉主事	任用資格	全学科	特定科目の修得および卒業
社会保険労務士	受験資格	全学科	卒業要件に必要とする 62単位以上修得

(3) 本学で実施する資格試験

資格の種類	対象学科	取得の要件・その他
日本商工会議所認定 簿記検定試験2・3・4級	全学科	試験合格(年3回実施されますが、 本学では6月と11月の年2回を学内で実施します。 申込方法は、掲示板でお知らせします。)
ガス溶接技能者	全学科	ガス溶接技能講習修了

07. 飛び級制度

飛び級制度とは、「学校教育法施行規則第70条第1項第4号」により導入された制度です。

大学院へ進む場合、大学を卒業してから大学院へ入学するのが一般的ですが、特に優秀な学生で、大学に3年以上在学し、かつ研究者として優れた資質を有する者に早期から大学院教育を実施する道をひらくのが飛び級制度です。

この制度を適用する場合、以下の「大学院学則」および「大学院学則の適用基準に関する工学研究科内規」に基づき実施されます。

この規程により大学院への入学資格を認められると、大学と大学院の両方に在籍することはできませんので、合格者はすみやかに在籍する大学の退学手続きをとり、大学院入学手続きをしてください。詳細についての問い合わせは、教務課に相談してください。

なお、種々の国家試験等の受験資格では、大学の学部卒業を要件としているものがあります。その場合は、不利となることを承知しておく必要があります。

参考

—飛び級入学資格—

平成18年4月以降に工学部に入学者が飛び級での大学院入学資格を得るためには、以下の条件を全て満たしてください。

- ① 本学工学部に1年次より在学
- ② 4年次配当の必修科目を除く卒業要件単位を全て修得、かつ124単位以上修得
- ③ 全修得科目の平均点が88点以上
- ④ 当該学科で推薦

08.カリキュラム

(1) 総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期	前 期
総合教育科目	表現力基礎演習	2	24以上	2	(2)					全員履修科目	
	文 学	2		2							
	哲 学	2		2							
	論 理 学	2		2							
	心 理 学	2		2							
	社会思想史	2		2							
	日本国憲法	2			2						
	現代の政治	2			2						
	経済学の基礎	2			2						
	近代史	2			2						
	地理学	2			2						
	物質科学	2			2						
	宇宙科学	2			2						
	環境科学	2			2						
	生命科学	2			2						
	現代数学入門	2			2						
	平和学	2			2	(2)					
	時事問題	2				2					
	外国の社会と文化	2				2					
	倫理学(工業論理を含む。)	2				2					
科学技術史	2			2							
日本事情 1	②			2					留学生向け科目		
日本事情 2	②				2				留学生向け科目		
日本の社会と文化 1	②			2					留学生向け科目		
日本の社会と文化 2	②				2				留学生向け科目		

注) 総合教育科目の履修要件

- イ 「表現力基礎演習」は、留学生については随意選択科目とする。
- ロ 1年次配当の英語については、プレースメントテストを実施し、その結果に基づいて、習熟度別にクラスを分ける。
ただし、英語の2年次および3年次配当科目については、この限りではない。
- ハ 英語は「4単位以上」必修であるが、この規定は留学生には適用しない。
- ニ 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)は複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。
ただし、各言語は、必ず「入門1」から履修しなければならない。
- ホ 留学生は、日本文化の4科目8単位および日本語の8科目8単位を必修とする。
なお、留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。
- ヘ 留学生には英語のプレースメントテストを実施しない。

(2) 専門教育科目

(各履修コースの○印は必修科目・一印は原則としてコースによって履修できない科目)

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考								
			機 械	ゆめ育む		1年次		2年次		3年次		4年次										
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
専 門 教 育 科 目	機 械 工 学 基 礎 科 目	機 械 工 学 へ の 道	2	○	一		2															
		創 造 設 計 1	2	○			4															
		創 造 設 計 2	2	○					4													
		創 造 設 計 3	2	○						4												
		創 造 設 計 4	2	○							4											
		創 造 設 計 5	2	○								4										
		機 械 工 学 実 験	2	○	○				4	(4)												
		工 業 力 学 1	2	○	○			2														
		工 業 力 学 2	2	○	○			2														
		工 業 力 学 基 礎 1	2					2													[工業力学1]の補習科目	
		工 業 力 学 基 礎 2	2						2													[工業力学2]の補習科目
		材 料 力 学 1	2	○	○					2												
		材 料 力 学 2	2	○	○						2											
		材 料 力 学 基 礎 1	2								2											[材料力学1]の補習科目
	材 料 力 学 基 礎 2	2									2										[材料力学2]の補習科目	
	専 門 基 礎 科 目	基 礎 数 学 お よ び 演 習	4					4	(4)													
		解 析 学 1	2	○	○			2	(2)													
		解 析 学 2	2	○				2	(2)													
		解 析 学 3	2						2													
		代 数 学 1	2	○	○			2	(2)													
代 数 学 2		2	○				2	(2)														
代 数 学 3		2						2														
物 理 学 1		2	○				2	(2)														
物 理 学 演 習		2	○				2	(2)														
物 理 学 2		2					2															
物 理 学 実 験		2					4	(4)														
化		2					2															
コ ン プ ュ ー タ 演 習 1		2					2															
コ ン プ ュ ー タ 演 習 2		2						2														
専 門 応 用 科 目		応 用 数 学 1	2						2													
		応 用 数 学 2	2							2												
	流 体 力 学 1	2							2													
	流 体 力 学 2	2								2												
	熱 工 学 1	2							2													
	熱 工 学 2	2								2												
	機 械 運 動 学	2						2														
	機 械 要 素 設 計	2								2												
					機 械 コ ー ス	ゆめ育むコース																
					必 修 42	必 修 38																
					選 択 50	選 択 54																
					以 上	以 上																
					合 計 92	合 計 92																
					以 上	以 上																

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
			機 械	ゆ め 育 む		1年次		2年次		3年次		4年次				
						前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
専 門 教 育 科 目	機械工作法 1	2			(機械コース ゆめ育むコース 必修38・選択54以上 合計92以上)			2								
	機械工作法 2	2							2							
	機械材料	2				2										
	新素材工学	2						2								
	振動工学	2								2						
	機械力学	2									2					
	計測工学	2								2						
	制御工学 1	2						2								
	制御工学 2	2							2							
	固体力学	2									2					
	塑性加工学	2									2					
	機械工学演習	2								2						
	工業英語	2									2					
	図形処理工学	2						2								
	工業デザイン 1	2								2						
	工業デザイン 2	2									2					
	人間工学概論	2								2						
	電気・電子工学	2								2						
	ソフトウェア工学	2									2					
	エネルギー変換	2									2					
	トライボロジー	2									2					
	生産システム工学	2									2					
	切削加工学	2										2				
	接合工学	2										2				
	バイオメカニクス	2										2				
	人工知能概論	2										2				
	統計解析	2										2				
	メカトロニクス概論	2									2					
	ロボット工学概論	2										2				
	福祉工学概論	2										2				
	非破壊検査 1	2									2					
	非破壊検査 2	2										2				
技術者倫理	2										2					
知的財産	2										2					
資格取得講座	2									2						
ゼミナール科目 卒業研究	ゼミナール 1	2	○	—				2								
	ゼミナール 2	2	○	—					2							
	課外研究	1		—				2								
	卒業研究	4	○	—							8	8				

区分	科目	単位	履修コース		卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考				
			機 械	ゆめ育む		1年次		2年次			3年次		4年次	
						前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期	前 期	後 期
専 門 教 育 科 目	共通科目	ゆめふくらむテーマ科目1	2	—	○	2								
		ゆめふくらむテーマ科目2	2	—	○		2							
		ゆめふくらむテーマ科目3	2	—	○			2						
		ゆめふくらむテーマ科目4	2	—	○				2					
	特別演習	ゆめ育むコース特別演習1	4	—	○	4	4							
		ゆめ育むコース特別演習2	4	—	○			4	4					
		ゆめ育むコース特別演習3	4	—	○					4	4			
		ゆめ育むコース特別演習4	4	—	○							4	4	
小 計		179	92以上			28	28	36	32	36	34	16	12	
総合教育科目、専門教育科目合計		283	124以上			72	66	64	60	44	42	16	12	

注) 専門教育科目の履修要件

イ 補習科目の取扱い

「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得できなかった者は、それぞれに対応する補習科目を必ず修得しなければならない。修得した単位は、それぞれに対応する必修科目として、卒業要件単位に算入することができる。

ただし、補習科目を修得および履修した者は、それぞれに対応する「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を履修することができない。

なお、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得および未履修の者は、それぞれに対応する補習科目を履修することができない。

ロ 基礎科目の取扱い

「基礎数学および演習」については、プレイスメントテストの点数が基準に満たない者は、履修しなければならない。

また、入学初年度の前期に限り、専門基礎科目分野の対応する科目「解析学1」および「代数学1」を履修することができない。

ただし、プレイスメントテストの点数が基準を満たした者および専門基礎科目分野の科目「解析学1」、「解析学2」、「代数学1」および「代数学2」のいずれかを修得した者は、「基礎数学および演習」を履修することができない。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

Chapter

02

STUDY PLAN-08F 編入生

01.入学区分	039
02.卒業要件単位数(外国人留学生も共通)	040
03.卒業研究	043
04.卒業見込証明書	043
05.カリキュラム	044

01. 入学区分

編入生は、入学区分(資格)がイ、ロの2つに分かれます。個人別区分は機械工学科において審査・認定されます。

区 分	該 当 者
イ	学則第11条第2項第1、2、4および5号に該当する者または本学において同等以上の学力があると認めた者
ロ	学則第11条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認めた者

学則第11条第2項

- (1)大学院を修了した者または大学を卒業した者
- (2)短期大学を卒業した者または高等専門学校を卒業した者
- (3)専修学校の専門課程(修業年限が2年以上で、かつ、課程の修了に必要な総時間数が1,700時間以上)を修了した者
- (4)大学に2年以上在学し、62単位以上(卒業要件に算入されるもの)を修得した者
- (5)外国において本邦の高等教育課程と同等の課程を修了した者
- (6)本大学が指定する外国の高等教育機関において、前第4号に定める者と同等の資格を取得したと認定された者

02. 卒業要件単位数（外国人留学生も共通）

（1）卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。入学区分（イ、ロ）により異なりますので間違わないよう注意してください。

<区分イ>学則第11条第2項第1、2、4および5号に該当する者または本学において同等以上の学力があると認められた者

専門教育 科目	必修科目	14単位	62単位	学士(工学)
	機械工学基礎科目	48単位 (自由科目4単位を含む。)		
	専門応用科目			
2年以上在学				

【総合教育科目】

総合教育科目は卒業要件単位に入りません。

【専門教育科目】62単位

①必修科目

「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」、「ゼミナール2」および「卒業研究」の6科目14単位を必ず修得してください。

ただし、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」、が不合格になった場合は、各々に対応する「工業力学基礎1」、「工業力学基礎2」、「材料力学基礎1」、「材料力学基礎2」を必ず修得してください。

②選択科目

①以外に、機械工学基礎科目分野、専門応用科目分野から併せて48単位を修得してください。

※専門基礎科目分野の科目を修得しても卒業要件単位には入りません。

※「機械工学への道」、「創造設計3、4、5」および「基礎数学および演習」は履修することができません。

＜区分口＞学則第11条第2項第3号に該当する者もしくは本学において同等以上の学力があると認められた者

総合教育科目		12単位	74単位	学士(工学)
専門教育科目	必修科目	14単位		
	機械工学基礎科目	} 8単位以上 } (自由科目4単位を含む。)		
	専門基礎科目			
	専門応用科目			
2年以上在学				

【総合教育科目】12単位

【専門教育科目】62単位

①必修科目

「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」、「ゼミナール2」および「卒業研究」の6科目14単位を必ず修得してください。

ただし、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」、「材料力学2」、が不合格になった場合は、各々に対応する「工業力学基礎1」、「工業力学基礎2」、「材料力学基礎1」、「材料力学基礎2」を必ず修得してください。

②選択科目

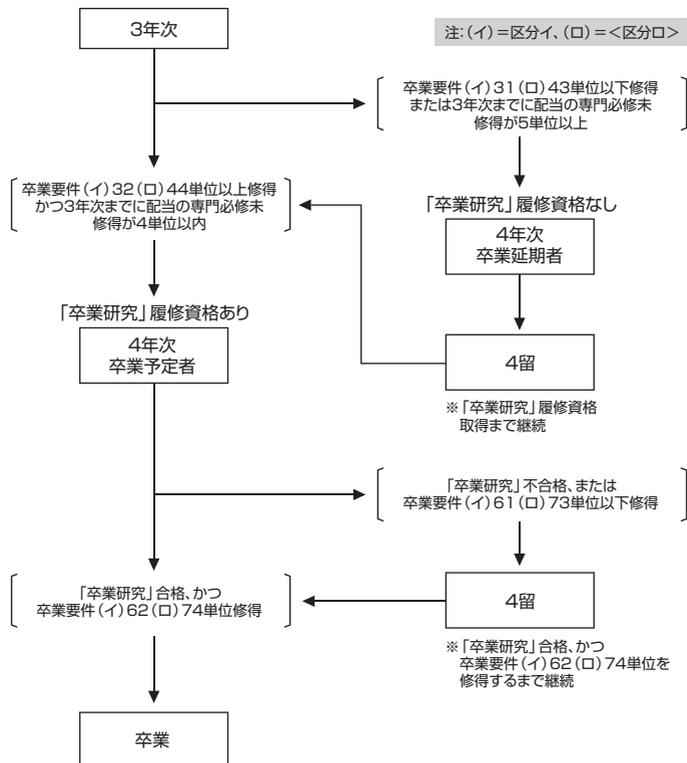
①以外に、機械工学基礎科目分野、専門基礎科目分野、専門応用科目分野から併せて48単位を修得しますが、そのうち機械工学基礎科目分野と専門基礎科目分野から併せて8単位以上修得してください。8単位を超えて修得した単位は専門応用分野の卒業要件単位に入ります。

※「表現力基礎演習」、「機械工学への道」、「創造設計3、4、5」および「基礎数学および演習」は履修することができません。

(2) 進級の条件

編入生は、1年間に最大54単位まで履修申請することができます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

—進級および卒業までの流れ—



03. 卒業研究

(1) 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」（4年次配当科目）を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請をする前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

(2) 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

- ①入学区分によって以下の卒業要件単位を修得していること。
 - 区分イ:32単位以上
 - 区分ロ:44単位以上
- ②3年次までに配当された専門必修科目の未修得が4単位以内であること。

04. 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機（本館1階、13号館1階）を利用してください。

05. カリキュラム

(1)区分イ

①総合教育科目は卒業要件単位に入りません。

②専門教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目一印は履修できない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考				
				1年次		2年次			3年次		4年次	
				前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期	前 期	後 期
専 門 教 育 科 目	機 械 工 学 基 礎 科 目	機械工学への道	—							**		
		創造設計 1	2		4							
		創造設計 2	2			4						
		創造設計 3	—				—				**	
		創造設計 4	—					—			**	
		創造設計 5	—						—		**	
		機械工学実験	2			4	(4)					
		工業力学 1	②		2							
		工業力学 2	②			2						
		工業力学基礎 1	2			2					[工業力学1]の補習科目	
		工業力学基礎 2	2				2				[工業力学2]の補習科目	
		材料力学 1	②				2					
		材料力学 2	②					2				
		材料力学基礎 1	2					2			[材料力学1]の補習科目	
	材料力学基礎 2	2						2		[材料力学2]の補習科目		
	専 門 基 礎 科 目	基礎数学および演習	—		—	—					**	
		解析学 1	2		2	(2)					*	
		解析学 2	2			2	(2)				*	
		解析学 3	2				2				*	
		代数学 1	2		2	(2)					*	
代数学 2		2			2	(2)				*		
代数学 3		2				2				*		
物理学 1		2		2	(2)					*		
物理学演習	2		2	(2)					*			
物理学 2	2			2					*			
物理学実験	2		(4)	4					*			
化学	2			2					*			
			必修14 選択48 合計62									

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考											
				1年次		2年次			3年次		4年次								
				前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期							
専 門 教 育 科 目	専 門 応 用 科 目	トライボロジー	2				2												
		生産システム工学	2				2												
		切削加工学	2						2										
		精密加工学	2				2												
		接合工学	2				2												
		バイオメカニクス	2					2											
		人工知能概論	2					2											
		統計解析	2						2										
		メカトロニクス概論	2						2										
		ロボット工学概論	2							2									
		福祉工学概論	2								2								
		計算力学	2								2								
		非破壊検査概論	2							2									
		技術者倫理	2											2					
	知的財産	2												2					
	資格取得講座	2										2							
	卒業研究 ゼミナール	ゼミナール 1	2					2											
		ゼミナール 2	②							2									
		課外研究 1	1					2											
		課外研究 2	1								2								
卒業研究		④											8	8					
合 計			62																

注) 専門教育科目の履修要件

イ 卒業要件単位に算入しない科目

表中備考欄に「*」印のついた科目は履修しても卒業要件単位に入らない。「**」印のついた科目は履修できない。

ロ 補習科目の取扱い

「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得できなかった者は、それぞれに対応する補習科目を必ず修得しなければならない。修得した単位は、それぞれに対応する必修科目として、卒業要件単位に算入することができる。ただし、補習科目を修得および履修した者は、それぞれに対応する「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を履修することができない。なお、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得および未履修の者は、それぞれに対応する補習科目を履修することができない。

(2)区分口

①総合教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目・一印は履修できない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数				備考				
				1年次		2年次			3年次		4年次	
				前期	後期	前期	後期		前期	後期	前期	後期
総合教育科目	表現力基礎演習	1	12	—	—					**		
	人文科学	2		2								
	文 学	2		2								
	哲 学	2		2								
	論 理 学	2		2								
	心 理 学	2		2								
	社会思想史	2		2								
	社会科学	2			2							
	日本国憲法	2			2							
	現代の政治	2			2							
	経済学の基礎	2			2							
	近代史	2			2							
	地理学	2			2							
	自然科学	2			2							
	物質科学	2			2							
	宇宙科学	2			2							
	環境科学	2			2							
	生命科学	2			2							
	現代数学入門	2			2							
	学際領域	2			2	(2)						
平和学	2		2									
時事問題	2		2									
外国の社会と文化	2		2									
倫理学(工業倫理を含む。)	2		2									
科学技術史	2		2									
日本文化	1	2	2					留学生向け科目				
日本事情 2	2	2	2					留学生向け科目				
日本の社会と文化 1	2	2	2					留学生向け科目				
日本の社会と文化 2	2	2	2					留学生向け科目				

注)備考欄に**印のあるものは履修できません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考				
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期					
総合 教育 科目	身 体 科 学	スポーツ科学実習1	1	(12)	2											
		スポーツ科学実習2	1			2										
		スポーツ科学	2				2									
		運 動 科 学	2					2								
		小 計				12										

注)総合教育科目の履修要件

- イ 「表現力基礎演習」(**)は、履修できない。
- ロ 英語の科目は、授業内容により、以下の2グループに分ける。
 - (1)「英語(Listening&Speaking)」
 - 一般クラス(TOEIC(Listening)を含む)およびTOEIC上級(Listening)
 - (2)「英語(Reading&Writing)」
 - 一般クラス(TOEIC(Reading)を含む)およびTOEIC上級(Reading)
- ハ 初修外国語(ドイツ語、フランス語、中国語)は複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。
ただし、各言語は、必ず「入門1」から履修しなければならない。
- ニ 留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。

※週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次は1年次の、2年次は1、2年次の、3年次は1、2、3年次の、4年次は1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合があります。

②専門教育科目

(単位数を○でかこんだものは必修科目一印は履修できない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
専 門 教 育 科 目	機 械 工 学 基 礎 科 目	機械工学への道	—	必 修 14 ・ 選 択 48 合 計 62	—								**		
		創造設計 1	2		4										
		創造設計 2	2			4									
		創造設計 3	—				—								**
		創造設計 4	—					—							**
		創造設計 5	—						—						**
		機械工学実験	2				4	(4)							
		工業力学 1	②			2									
		工業力学 2	②				2								
		工業力学基礎 1	2				2								[工業力学1]の補習科目
		工業力学基礎 2	2					2							[工業力学2]の補習科目
		材料力学 1	②					2							
		材料力学 2	②						2						
		材料力学基礎 1	2						2						[材料力学1]の補習科目
	材料力学基礎 2	2							2					[材料力学2]の補習科目	
	専 門 基 礎 科 目	基礎数学および演習	—			—	—								**
		解析学 1	2			2	(2)								
		解析学 2	2				2	(2)							
		解析学 3	2					2							
		代数学 1	2				2	(2)							
		代数学 2	2					2	(2)						
代数学 3		2					2								
物理学 1		2			2	(2)									
物理学演習		2			2	(2)									
物理学 2		2				2									
物理学実験	2			(4)	4										
化学	2				2										

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期				
専 門 教 育 科 目	コンピュータ演習1	2	(必修14・選択48 合計62)	2											
	コンピュータ演習2	2			2										
	応用数学1	2			2										
	応用数学2	2				2									
	流体力学1	2				2									
	流体力学2	2					2								
	熱工学1	2				2									
	熱工学2	2					2								
	機械運動学	2			2										
	機械要素設計	2					2								
	機械工作法1	2					2								
	機械工作法2	2						2							
	材料加工学	2				2									
	機械材料	2			2										
	新素材工学	2					2								
	振動工学	2						2							
	機械力学	2							2						
	計測工学	2							2						
	精密計測工学	2								2					
	制御工学1	2					2								
	制御工学2	2						2							
	固体力学	2								2					
	塑性加工学	2									2				
	機械工学演習	2									2				
	工業英語	2										2			
	図形処理工学	2				2									
	工業デザイン1	2								2					
	工業デザイン2	2									2				
	人間工学概論	2									2				
	電気・電子工学	2						2							
ソフトウェア工学	2								2						
エネルギー変換	2									2					

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考												
				1年次		2年次			3年次		4年次									
				前 期	後 期	前 期	後 期		前 期	後 期	前 期	後 期								
専 門 教 育 科 目	専 門 応 用 科 目	トライボロジー	2				2													
		生産システム工学	2				2													
		切削加工学	2					2												
		精密加工学	2				2													
		接合工学	2				2													
		バイオメカニクス	2					2												
		人工知能概論	2					2												
		統計解析	2						2											
		メカトロニクス概論	2						2											
		ロボット工学概論	2							2										
		福祉工学概論	2								2									
		計算力学	2								2									
		非破壊検査概論	2							2										
		技術者倫理	2										2							
	知的財産	2											2							
	資格取得講座	2											2							
	卒業研究 ゼミナール	ゼミナール 1	2						2											
		ゼミナール 2	②							2										
		課外研究 1	1						2											
		課外研究 2	1								2									
卒業研究		④											8	8						
小 計			62																	
総合教育科目、専門教育科目 合計			74																	

注) 専門教育科目の履修要件

イ 卒業要件単位に算入しない科目

表中備考欄に「*」印のついた科目は履修しても卒業要件単位に入らない。「**」印のついた科目は履修できない。

ロ 補習科目の取扱い

「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得できなかった者は、それぞれに対応する補習科目を必ず修得しなければならない。修得した単位は、それぞれに対応する必修科目として、卒業要件単位に算入することができる。ただし、補習科目を修得および履修した者は、それぞれに対応する「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を履修することができない。なお、「工業力学1」、「工業力学2」、「材料力学1」および「材料力学2」を修得および未履修の者は、それぞれに対応する補習科目を履修することができない。